

# 京都市子どもの生活状況等に関する調査

## 【結果報告書】

### <概要版>

平成29年3月

京都市

# I 調査概要

## 1 調査の目的

京都市では、貧困家庭の子どもや青少年に関する問題に対し、教育の支援、生活の支援、保護者に対する就労の支援、経済的支援を中心とした、多岐にわたる施策を全庁一丸となって融合・実施するため、平成28年4月1日付けで「貧困家庭の子ども・青少年対策プロジェクトチーム」を設置しています。

この度、次代を担う子どもたちが、健やかに育っていくための今後の支援策を検討するため、貧困状態にある家庭だけでなく、貧困状態にない家庭も含めて、お子さんのおられる御家庭の様子、保護者の就労の状況、子育てについての困りごとなどをお伺いし、家庭の経済状況と子どもの生活習慣等との相関関係を把握することを目的として、「京都市子どもの生活状況等に関する調査」を実施しました。

## 2 調査概要

### (1) 調査対象

京都市内の0～17歳（平成28年4月1日時点）の子どもがいる家庭

なお、調査は、乳幼児（0～5歳）、小学生（6～11歳）、中高生等（12～17歳）がいる家庭に区分して実施しました。（以下、調査の区分は「乳幼児」、「小学生」、「中高生等」と表示します。）

### (2) 調査方法等

各家庭の経済状況のほか、生活の状況、教育の状況、家族や地域との関わりなど、家庭の「子育て力」の実態や、家庭が抱える悩み・課題等を把握するための調査票を住民基本台帳から無作為抽出した子育て世帯に郵送し、同封の返信用封筒にて返送いただきました。

なお、回答いただく際に、氏名・住所の記載を求めない無記名式の調査としました。

### (3) 調査件数・回収率

18,000件

区分	配布数	有効回収数	有効回収率
乳幼児（0～5歳）	6,000	3,248件	54.1%
小学生（6～11歳）	6,000	2,889件	48.2%
中高生等（12～17歳）	6,000	2,642件	44.0%
合計	18,000	8,779件	48.8%

### (4) 調査期間

平成28年8月5日から平成28年8月22日まで

### 【参考1】本市の支援施策を利用されている方に対するアンケート調査

「無作為抽出による市民アンケート調査」とは別に、支援を要する子どもや家庭の実態をより多く把握するため、本市の支援施策を利用されている方に対するアンケート調査を実施しました。

- (1) 調査対象 ①子どものいる生活保護受給世帯、②児童扶養手当受給世帯  
(2) 調査方法等

「無作為抽出による市民アンケート調査」調査票から収入に関する設問を削除した調査票を、無作為に抽出（市民アンケート調査と重複しないよう抽出）した世帯に郵送し、同封の返信用封筒にて返送いただきました。

なお、「無作為抽出による市民アンケート調査」と同様、無記名式の調査としました。

- (3) 対象件数 ①②それぞれ300件ずつ抽出し、合計600件について実施

	配布数	有効回収数	有効回収率
生活保護受給世帯	300	74件	24.7%
児童扶養手当受給世帯	300	109件	36.3%
合計	600	183件	30.5%

- (4) 調査期間

平成28年8月9日から平成28年8月29日まで

### 【参考2】本調査において世帯の所得が「貧困線」を下回るとする基準の算定方法

国においては、国民生活基礎調査を基に、世帯人数ごとの等価可処分所得（可処分所得（いわゆる手取り収入）を世帯人員の平方根で割ったもの）の分布の中央値の半分の額を繋いだ「貧困線」とし、これを基に全国の貧困率を算出しています。一方、貧困線の都道府県、市町村別の数値が出されていないため、本調査においては、便宜的に、国が国民生活基礎調査により算出した全国の貧困線を基に、回答いただいた世帯がおおむね相対的貧困の状況にあると考えられるかどうかを判断することとしました。

また、国の貧困線算定に当たっての所得の把握方法としては、回答者が金額を記入する方式を採っていますが、京都市の調査では、回答いただく方の負担を考慮し、100万円から200万円単位で区分した金額の選択肢から選んでいただく方式により、概ねの可処分所得を把握することとしました。

#### ◆ 貧困線の基準（国の基準（25年度国民生活基礎調査による））

世帯人員	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人
等価可処分所得	122万円	173万円	212万円	244万円	273万円	299万円	323万円

※等価可処分所得：手取りの収入（可処分所得）を世帯人員の平方根で除したもの

#### ◆ 本市における「貧困線」以上・以下の判定方法

アンケート調査で回答いただく所得の選択肢には幅がある（①0～100万円、②101～200万円・・・など）ため、回答いただいた選択肢の中央値を所得額と仮定して判定

（例）手取りの収入（可処分所得）を「201～300万円」と回答した3人世帯の場合と2人世帯の場合

・手取りの収入の算定：選択肢における収入幅の中央値の250万円と仮定

・「貧困線」以上・以下の判定

等価可処分所得：250万円÷ $\sqrt{3}$  = 144.3万円 < 212万円（3人世帯の貧困線）

⇒当該世帯は、「貧困線」以下にあると推計

：250万円÷ $\sqrt{2}$  = 177.1万円 > 173万円（2人世帯の貧困線）

⇒当該世帯は、「貧困線」以上にあると推計

## 調査項目

- 1 回答者の基本属性・世帯類型
  - (1) 世帯の基本属性
    - ア 世帯構成
    - イ **世帯の可処分所得等**
    - ウ 住居の状況
  - (2) 保護者の基本属性
    - ア 子どもから見た続柄, 年齢, 障害の有無
    - イ **保護者の最終学歴**
  - (3) 子どもの基本属性
    - ア 子どもの性別, 障害の有無
    - イ 平日日中の保育等の利用状況【乳幼児のみ】
    - ウ 学校教育機関等の在籍状況【小学生・中高生等のみ】
- 2 世帯の生活状況
  - (1) 保護者の就労状況
    - ア **就業状況** (仕事の有無, **職業**, 今後の就業意向)
    - イ **勤務状況** (日数, 出勤時間, **帰宅時間**, 労働時間)
  - (2) **暮らし向きに関する認識**
  - (3) 各種料金未払い等の状況
- 3 子どもの状況について
  - (1) 子どもの学力・学習等の状況
    - ア **学習塾や習い事の利用状況**
    - イ **学校での勉強の成績** 【小学生・中高生等のみ】
    - ウ 登校状況【小学生・中高生等のみ】
  - (2) 子どもの健康・生活習慣の状況
    - ア **食事の状況** (朝食・夕食の状況, 料理・外食等の頻度)
    - イ **起床・就寝時間**
    - ウ むし歯の状況
    - エ **健康状態**, 身長・体重, 健康診査の受診状況【健康状態以外は乳幼児のみ】
    - オ **所有物** (自分一人で使うものとして持っているもの)
    - カ テレビやスマートフォン等の使用時間
    - キ **放課後又は長期休業中の過ごし方**【小学生・中高生等のみ】
    - ク 文化芸術活動・自然体験・スポーツ活動の機会・読書の状況【文化芸術等は小学生・中高生のみ】
  - (3) **子どもの自己肯定感**【小学生・中高生等のみ】
- 4 保護者の状況について
  - (1) **保護者の健康状態**
  - (2) 子どもと遊ぶ頻度 (中高生等は話す頻度)・勉強を教える頻度【小学生・中高生等のみ】
  - (3) 子どもに望む最終学歴, 子育てにかかる時間やお金等の優先度
  - (4) **相談相手の状況**
  - (5) 悩んでいること
  - (6) 町内会への加入状況
- 5 支援策について
  - (1) 各種支援策の利用状況
  - (2) **求めている子育て支援策**
  - (3) 自由記述

※ 本資料(概要版)に記載している調査結果(項目)は太字としている。

## Ⅱ 主な調査結果

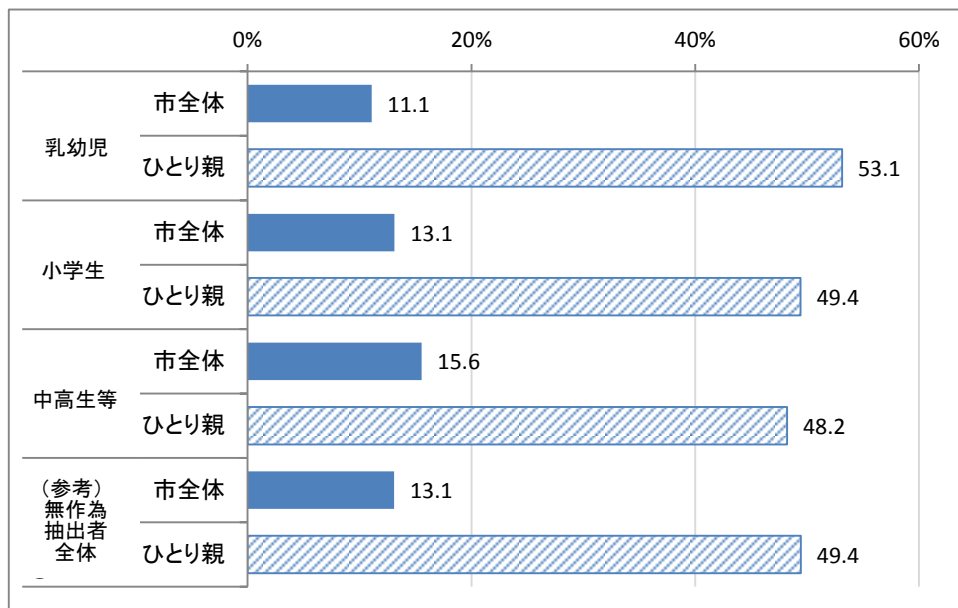
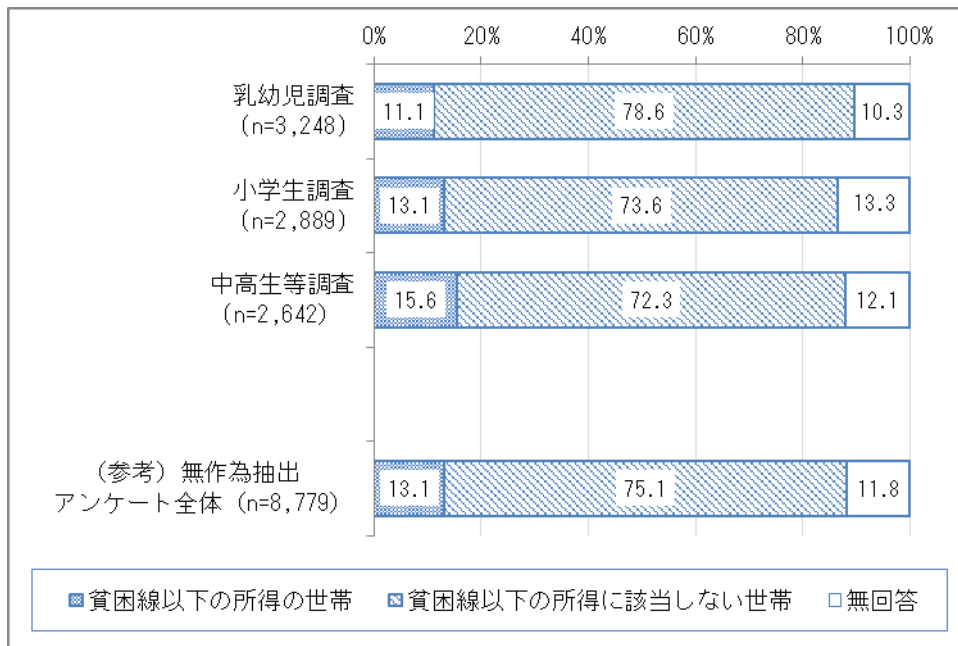
### 1 回答者の基本属性・世帯類型

#### (1) 世帯の基本属性

##### 世帯の可処分所得等

本調査において所得が「貧困線」を下回ると考えられる世帯の割合について、全体では、乳幼児 11.1%、小学生 13.1%、中高生等 15.6%となっていますが、「ひとり親世帯」では乳幼児 53.1%、小学生 49.4%、中高生等 48.2%となっています。

図表 1 「貧困線」を下回る所得の世帯の割合



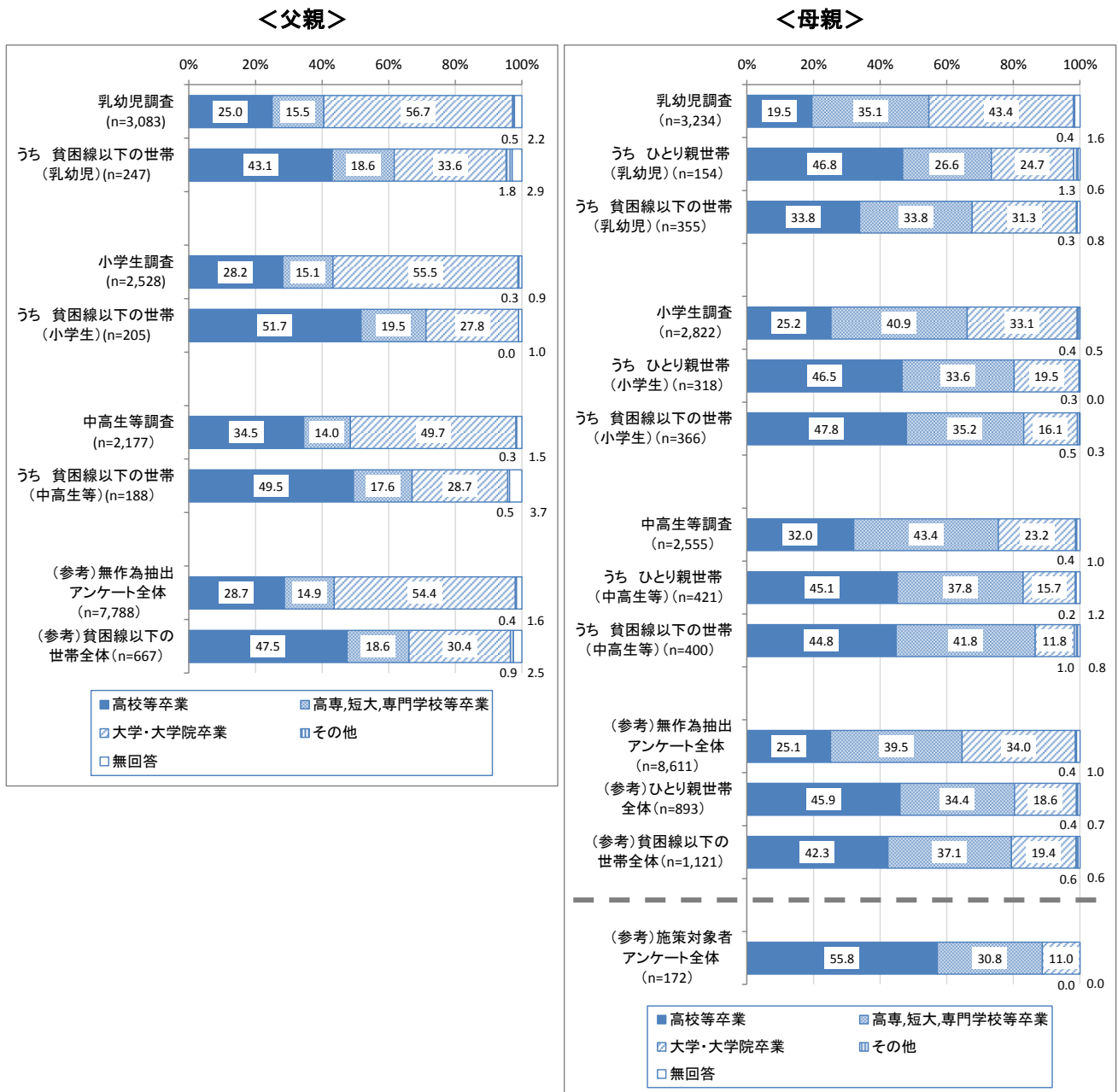
※ 国は、子どもの相対的貧困率（平成24年は16.3%）を公表していますが、これは子どもがいない世帯も対象として所得額（種別ごと）や控除額等を詳細に聴取する調査（国民生活基礎調査（所得票））に基づいて算出したものです。一方、本市調査は、「相対的貧困率」の算出を目的としたものではなく、子どもがいる世帯を対象にその生活実態を幅広い観点から把握するためのものであり、国調査とは対象や算定方法が異なるため、調査結果から国の相対的貧困率と比較し得る貧困率を算出することはできません。

## (2) 保護者の基本属性

### 保護者の最終学歴

- ・ 父親の最終学歴は、子どもの年齢にかかわらず「大学・大学院卒業」が最も高く、次いで「高校等卒業」となっています。
- ・ 母親の最終学歴については、乳幼児は「大学・大学院卒業」が、小学生と中高生等は「高専、短大、専門学校等卒業」が最も高くなっており、次いで乳幼児は「高専、短大、専門学校等卒業」、小学生は「大学・大学院卒業」、中高生等は「高校等卒業」が高くなっています。
- ・ 「ひとり親世帯」の母親及び「貧困線以下の所得の世帯」については、乳幼児、小学生、中高生等のいずれも「高校等卒業」の割合が最も高くなっています。

図表 2 保護者の最終学歴



※ ひとり親世帯及び施策対象者アンケートでの父親の標本数が少ないため、<父親>のグラフに掲載していない。

## 2 世帯の生活状況

### (1) 保護者の就労状況

#### 就業状況（職業）

- ・ 就労形態については、父親は「正社員・正規職員」が80%前後となっているのに対し、母親では、乳幼児は「正社員・正規職員」が46.4%、小学生、中高生等は「パート・アルバイト」が53.7%と高くなっています。
- ・ 「貧困線以下の所得の世帯」の父親については、「正社員・正規職員」の割合が全体と比較して低くなっている一方で、「自営業主」の割合が高くなっています。また、ひとり親世帯の母親については、小学生、中高生等において「正社員・正規職員」の割合が全体と比較して高くなっている一方で、「貧困線以下の所得の世帯」の母親については、「正社員・正規職員」の割合が全体と比較して低くなっています。

図表 3 保護者の就労形態

父親

(単位:%)

	正社員・ 正規職員	パート・ アルバイト	嘱託・契約社 員・準社員・臨 時職員	人材派遣 会社の 派遣社員	自営業主	自家営 業の手 伝い	その他	無回答
乳幼児調査 (n=3,013)	81.9	1.9	2.4	0.2	10.7	1.1	1.0	2.2
うち 貧困線以下の所 得の世帯(乳幼児) (n=251)	52.6	6.0	3.6	0.4	33.9	3.2	3.2	1.6
小学生調査 (n=2,460)	80.4	1.6	2.4	0.1	14.7	0.9	1.1	0.4
うち 貧困線以下の 所得の世帯(小学生) (n=186)	46.8	5.4	5.9	0.0	41.4	1.6	2.7	1.6
中高生等調査 (n=2,108)	76.4	1.9	2.9	0.3	16.7	1.3	1.6	0.9
うち 貧困線以下の 所得の世帯(中高生等) (n=168)	44.6	8.9	4.8	1.8	38.7	4.2	1.8	0.0
(参考)無作為抽出 アンケート全体(n=7,581)	79.9	1.8	2.5	0.2	13.6	1.1	1.2	1.3
(参考)貧困線以下の 所得の世帯全体 (n=605)	48.6	6.6	4.6	0.7	37.5	3.0	2.6	1.2

※ ひとり親世帯及び施策対象者アンケートについては、父親の標本数が少ないため掲載していない。

母親

(単位:%)

	正社員・ 正規職員	パート・ア ルバイト	嘱託・契約 社員・準社 員・臨時職 員	人材派遣 会社の 派遣社員	自営業主	自家営業 の手伝い	その他	無回答
乳幼児調査 (n=1,969)	46.4	33.3	6.1	2.3	5.2	5.3	2.0	1.1
うち ひとり親世帯 (乳幼児) (n=123)	41.5	42.3	8.1	3.3	4.1	0.0	2.4	0.0
うち 貧困線以下の 所得の世帯(乳幼児) (n=244)	24.6	42.6	8.2	3.3	6.6	12.7	3.3	0.8
小学生調査 (n=2,069)	28.4	53.7	5.3	2.5	3.2	6.8	2.4	0.3
うち ひとり親世帯 (小学生) (n=276)	41.7	44.2	8.3	3.6	2.9	0.7	0.7	0.0
うち 貧困線以下の 所得の世帯(小学生) (n=298)	22.1	56.4	7.0	2.0	4.4	10.1	2.0	0.0
中高生等調査 (n=2,012)	26.1	53.7	7.6	2.4	3.9	7.8	2.1	0.4
うち ひとり親世帯 (中高生等 n=360)	39.2	41.1	11.4	3.1	6.7	2.2	0.6	0.6
うち 貧困線以下の 所得の世帯(中高生 等) (n=321)	15.6	60.1	7.8	4.4	5.9	9.0	3.1	0.6
(参考)無作為抽出 アンケート全体 (n=6,050)	33.5	47.1	6.3	2.4	4.1	6.7	2.2	0.6
(参考)ひとり親世帯 全体(n=759)	40.4	42.4	9.7	3.3	4.9	1.3	0.9	0.3
(参考)貧困線以下の 所得の世帯全体 (n=863)	20.4	53.9	7.6	3.2	5.6	10.4	2.8	0.5
(参考)施策対象者 アンケート全体 (n=138)	16.7	65.9	8.0	2.2	8.7	0.0	2.2	0.7



## 勤務状況（帰宅時間）

- ・ 帰宅時間は、乳幼児、小学生、中高生等のいずれも父親で「22時以降」が最も高く、「19時台」、「20時台」、「21時台」も、おおむね同割合となっていますが、母親は「15～16時台」、「17時台」、「18時台」の割合が高くなっています。
- ・ ひとり親世帯の母親については、乳幼児、小学生、中高生等のいずれも帰宅時間「18時台」以降の割合が全体と比較して高くなっています。

図表 4 保護者の帰宅時間

(単位: %)

### <父親>

	～11時台	12～14時台	15～16時台	17時台	18時台	19時台	20時台	21時台	22時以降	無回答
乳幼児調査 (n=3,013)	0.1	0.3	0.9	3.3	10.9	17.4	18.8	17.6	20.7	10.0
うち 貧困線以下の所得の世帯(乳幼児)(n=251)	0.0	0.4	1.6	4.8	10.8	21.9	18.7	8.8	21.1	12.0
小学生調査 (n=2,460)	0.6	0.7	0.6	2.9	10.9	17.2	18.7	16.8	23.1	8.6
うち 貧困線以下の所得の世帯(小学生)(n=185)	0.0	1.1	0.5	6.5	17.8	17.8	16.2	9.2	21.6	9.2
中高生等調査 (n=2,108)	0.1	0.8	1.0	3.9	11.7	20.2	19.8	14.4	20.3	7.6
うち 貧困線以下の所得の世帯(中高生等)(n=168)	0.6	1.2	3.6	7.7	19.0	16.1	16.7	6.0	17.3	11.9
(参考)無作為抽出アンケート全体(n=7,581)	0.3	0.6	0.8	3.3	11.1	18.1	19.0	16.4	21.4	8.9
(参考)貧困線以下の所得の世帯全体(n=604)	0.2	0.8	1.8	6.1	15.2	19.0	17.4	8.1	20.2	11.1

※ ひとり親世帯及び施策対象者アンケートについては、父親の標本数が少ないため掲載していない。

### <母親>

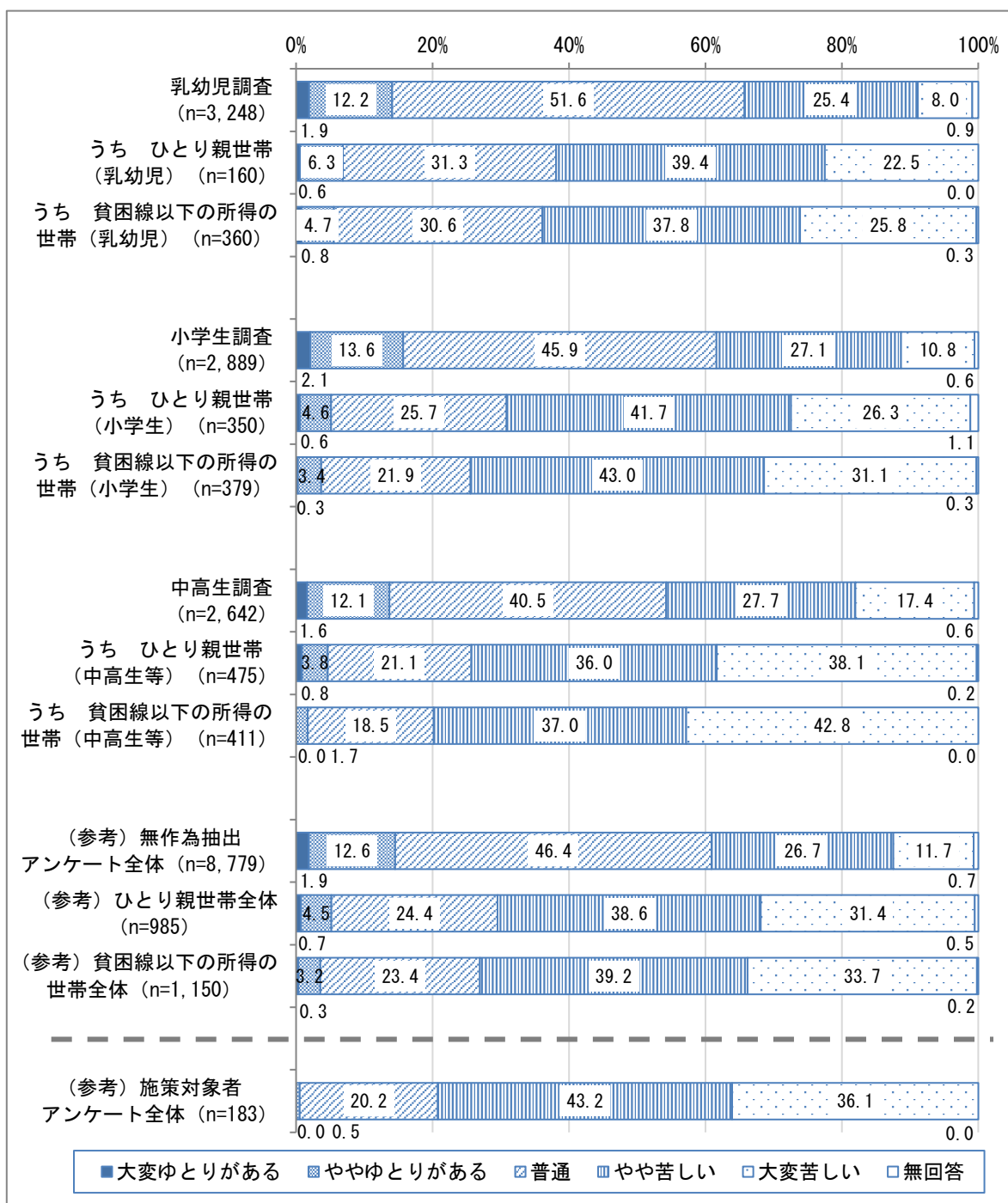
(単位: %)

	～11時台	12～14時台	15～16時台	17時台	18時台	19時台	20時台	21時台	22時以降	無回答
乳幼児調査 (n=1,656)	0.2	6.8	17.0	24.6	29.8	10.3	2.6	1.1	1.2	6.3
うち ひとり親世帯(乳幼児)(n=115)	0.0	1.7	15.7	15.7	41.7	15.7	5.2	1.7	0.0	2.6
うち 貧困線以下の所得の世帯(乳幼児)(n=213)	0.5	6.6	20.7	26.3	24.4	9.4	4.2	0.5	4.2	3.3
小学生調査 (n=2,027)	0.5	15.7	22.4	16.6	21.1	10.6	3.7	1.8	1.9	5.7
うち ひとり親世帯(小学生)(n=271)	0.7	3.0	15.1	14.4	30.3	19.2	7.7	3.0	3.3	3.3
うち 貧困線以下の所得の世帯(小学生)(n=291)	0.3	7.2	24.1	16.5	25.4	12.4	5.2	1.4	3.8	3.8
中高生等調査 (n=2,003)	0.5	11.6	16.7	16.0	23.2	13.6	7.0	2.2	2.7	6.3
うち ひとり親世帯(中高生等)(n=359)	0.6	3.6	5.6	12.3	30.9	18.7	13.6	4.5	5.0	5.3
うち 貧困線以下の所得の世帯(中高生等)(n=320)	0.6	10.0	12.5	11.9	27.8	14.7	8.4	3.1	5.3	5.6
(参考)無作為抽出アンケート全体(n=5,686)	0.4	11.6	18.0	17.7	24.1	12.5	5.4	1.9	2.2	6.2
(参考)ひとり親世帯全体(n=745)	0.5	3.1	10.6	13.6	32.3	18.4	10.2	3.5	3.6	4.2
(参考)貧困線以下の所得の世帯全体(n=824)	0.5	8.1	18.7	17.2	26.1	12.5	6.2	1.8	4.5	4.4
(参考)施策対象者アンケート全体(n=138)	0.0	7.2	15.9	19.6	25.4	10.9	7.2	1.4	2.9	9.4

## (2) 暮らし向きに関する認識

- ・ 暮らし向きに関する認識については、乳幼児、小学生、中高生等のいずれも、おおむね同じ傾向となっており、「普通」の割合が最も高く、次いで「やや苦しい」となっています。
- ・ 「ひとり親世帯」や「貧困線以下の所得の世帯」では、「やや苦しい」、「大変苦しい」の割合が全体よりも高くなっています。

図表 5 暮らし向きに関する認識



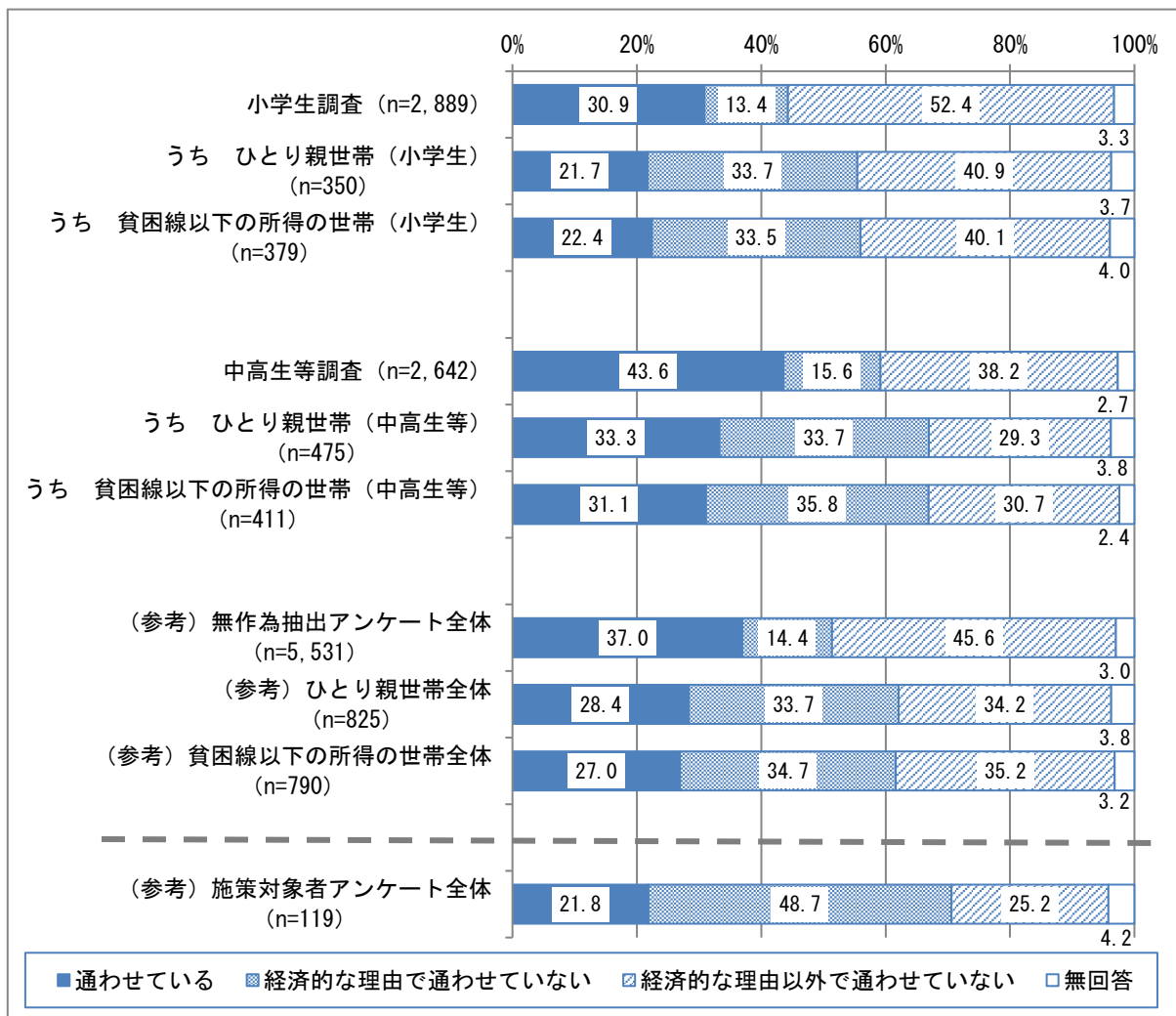
### 3 子どもの状況について

#### (1) 子どもの学力・学習等の状況

##### 学習塾の利用状況

- 小学生や中学生等の学習塾の利用状況について、「通わせている」割合は、小学生が30.9%、中学生等が43.6%となっています。
- 「ひとり親世帯」や「貧困線以下の所得の世帯」では、「通わせている」割合が全体と比較して低く、「経済的な理由で通わせていない」が小学生、中学生等のいずれも30%を超えています。
- 子どもに望む最終学歴として、「高校等」よりも「大学等」の方が学習塾に「通わせている」割合が高くなっており、最終学歴の希望が「特にない、わからない」という回答において「経済的な理由以外で通わせていない」の割合が、他と比較して高くなっていきます。

図表 6 学習塾の利用状況



図表 7 子どもに望む最終学歴別 学習塾の利用状況

(単位:%)

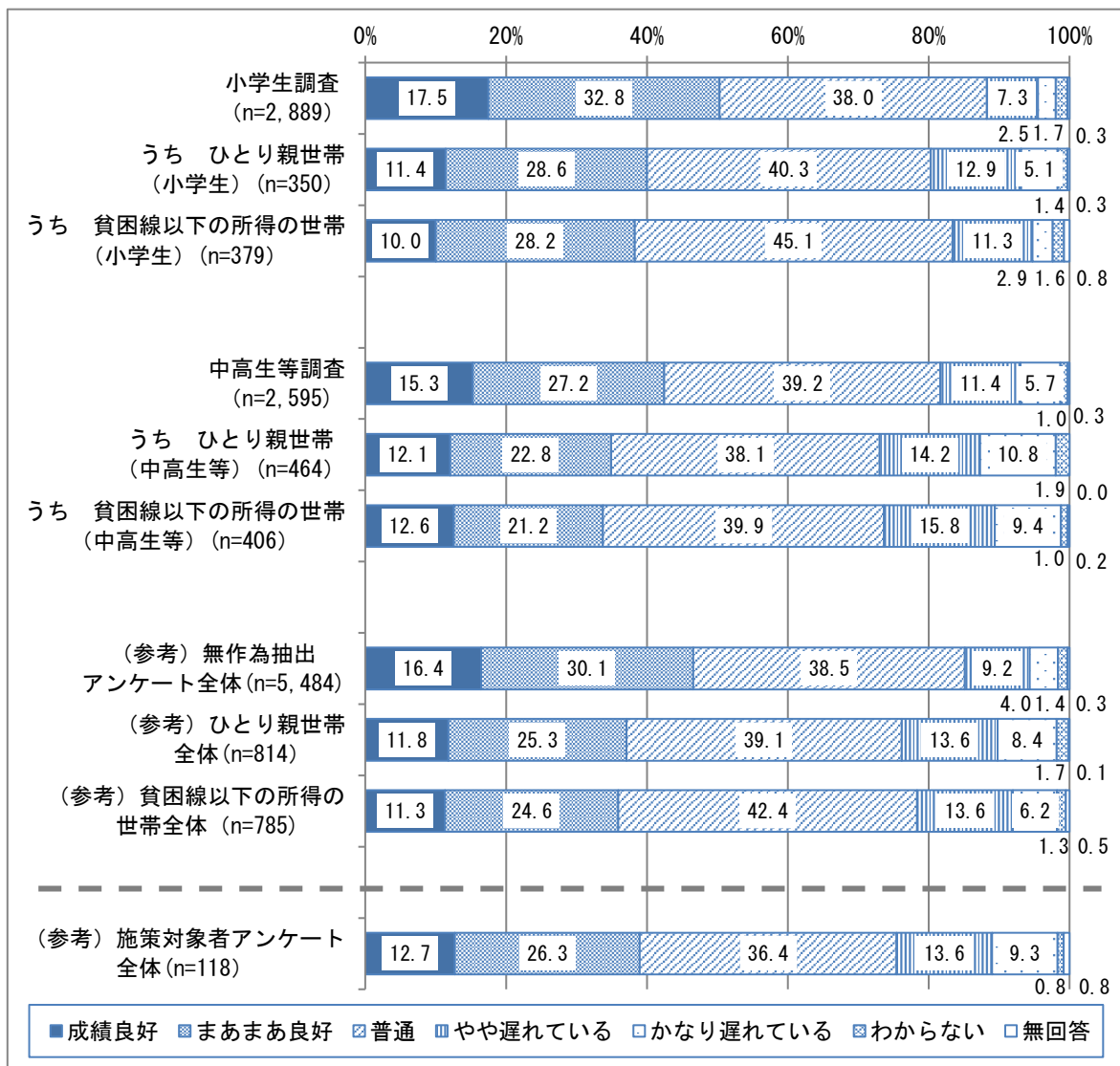
	(n=)	通わせている	経済的な理由で 通わせていない	経済的な理由以外 で通わせていない	無回答
小学生調査	2,889	30.9	13.4	52.4	3.3
うち 子どもに望む最終学歴が 高等学校等	540	16.1	25.2	52.6	6.1
うち 子どもに望む最終学歴が 大学等	2,035	37.2	10.3	49.8	2.7
うち 子どもに望む最終学歴が 特にない・わからない	263	14.4	13.3	70.7	1.5
中高生等調査	2,642	43.6	15.6	38.2	2.7
うち 子どもに望む最終学歴が 高等学校等	447	27.1	28.4	42.1	2.5
うち 子どもに望む最終学歴が 大学等	1,891	50.1	11.7	36.0	2.2
うち 子どもに望む最終学歴が 特にない・わからない	213	24.9	24.4	45.5	5.2

※ 「子どもに望む最終学歴が特にない・わからない」、「子どもに望む最終学歴が特にない」と「わからない」と回答した人の合計

## 学校での勉強の成績

- 学校での成績について、小学生、中高生等のいずれも「普通」の割合が最も高く、次いで「まあまあ良好」、「成績良好」となっています。
- 「ひとり親世帯」や「貧困線以下の所得の世帯」については、全体と比較して、小学生、中高生等のいずれも「遅れている（「やや遅れている」と「かなり遅れている」の合計）」の割合が高くなっています。
- 子どもに勉強を教える機会の頻度別では、小学生で「よくある」、「ときどきある」の場合、成績「良好」の割合が、他と比較して高くなっています。
- 子育てにかかる時間やお金等の優先度別では、「最も優先すべき」の場合の成績「良好」の割合が、他と比較して高くなっています。

図表 8 学校での勉強の成績の状況



図表 9 子どもに勉強を教える頻度別 学校での勉強の成績の状況 (単位:%)

	(n=)	良好	普通	遅れている	わからない	無回答
小学生調査	2,889	50.3	38.0	9.8	1.7	0.3
うち よくある	1,245	55.5	34.1	7.9	2.0	0.5
うち ときどきある	1,247	47.2	41.0	10.7	1.0	0.2
うち あまりない	304	43.8	43.1	10.9	2.0	0.3
うち ない	65	40.0	32.3	20.0	7.7	0.0

図表 10 子育てにかかるお金や時間等の優先度別 学校での勉強の成績の状況 (単位:%)

	(n=)	良好	普通	遅れている	わからない	無回答
小学生調査	2,889	50.3	38.0	9.8	1.7	0.3
うち 最も優先すべき	980	56.1	34.5	7.2	1.7	0.4
うち できるなら優先すべき	1,807	47.5	39.8	10.8	1.6	0.3
うち 他に優先すべきことがある・わからない	73	38.4	43.8	15.1	2.7	0.0
中高生等調査	2,595	42.5	39.2	17.0	1.0	0.3
うち 最も優先すべき	992	45.9	39.4	13.8	0.7	0.2
うち できるなら優先すべき	1,496	40.8	39.0	18.8	1.1	0.3
うち 他に優先すべきことがある・わからない	54	22.2	50.0	22.2	3.7	1.9

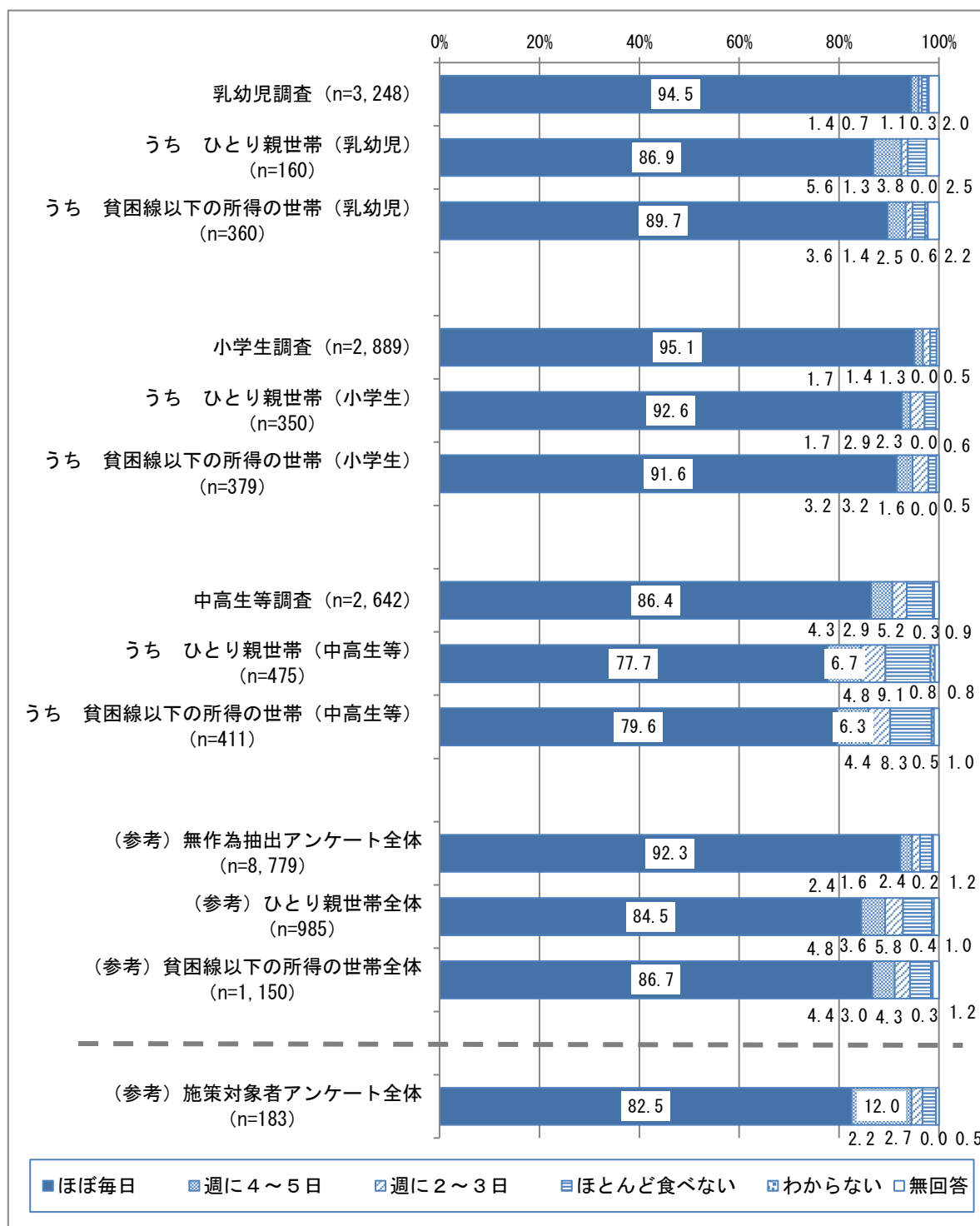
※ 「他に優先すべきことがある・わからない」は、「他に優先すべきことがある」と「わからない」と回答した人の合計

## (2) 子どもの健康・生活習慣の状況

### 食事の状況（朝食の状況）

- ・ 乳幼児，小学生，中高生等のいずれも「ほぼ毎日」食べているが大半を占めています。
- ・ 「ひとり親世帯」では「ほとんど食べない」の割合が乳幼児 3.8%，小学生 2.3%，中高生等 9.1%と，全体に比較して高くなっています。

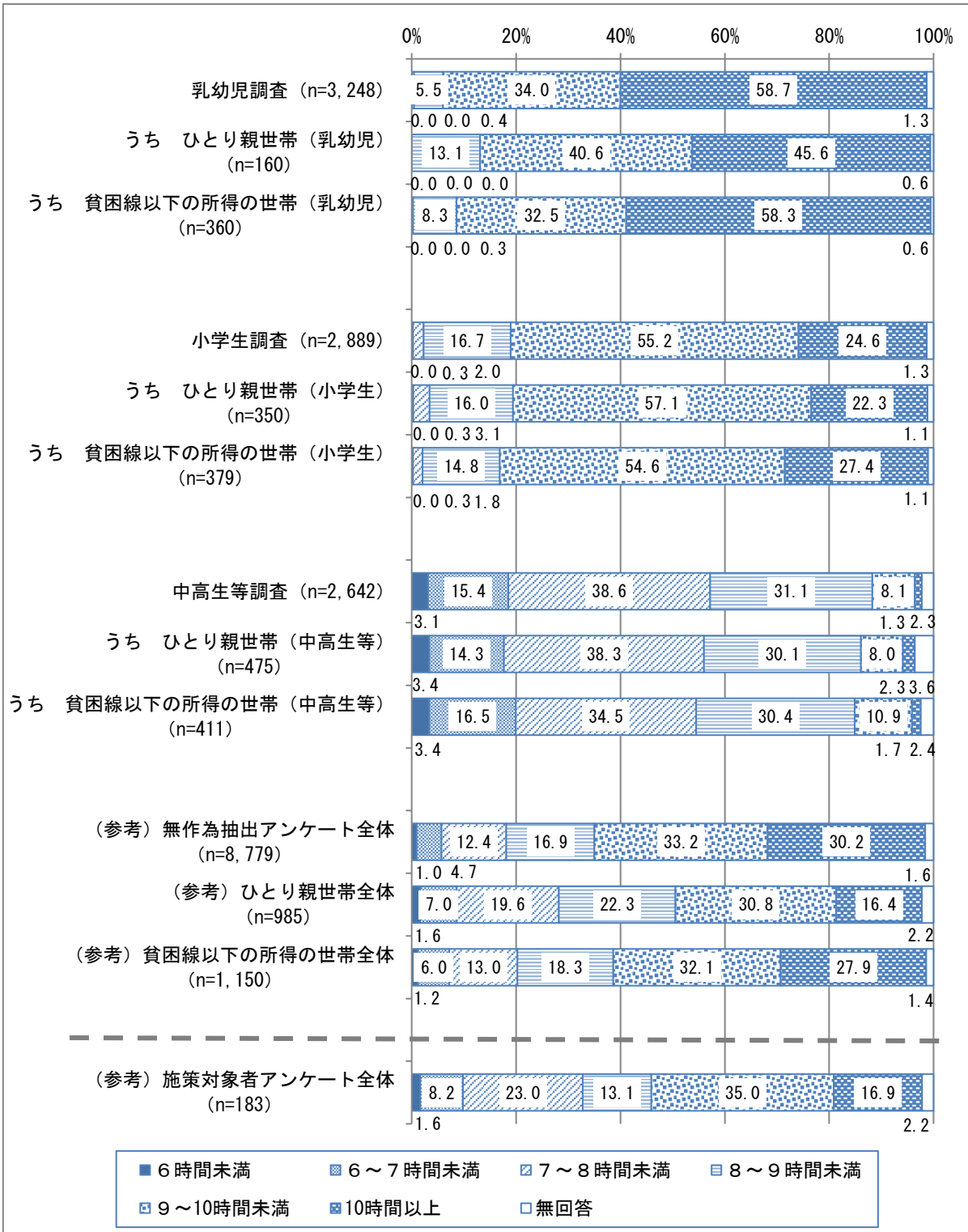
図表 11 朝食の回数



## 起床・就寝時間（睡眠時間）

- 睡眠時間については、乳幼児は「10時間以上」が58.7%、小学生は「9～10時間未満」が55.2%と最も高くなっています。中高生等は「7～8時間未満」と「8～9時間未満」が38.6%、31.1%となっています。一方で、「ひとり親世帯」では、乳幼児の「10時間以上」の割合が全体と比較して低くなっています。

図表 12 睡眠時間

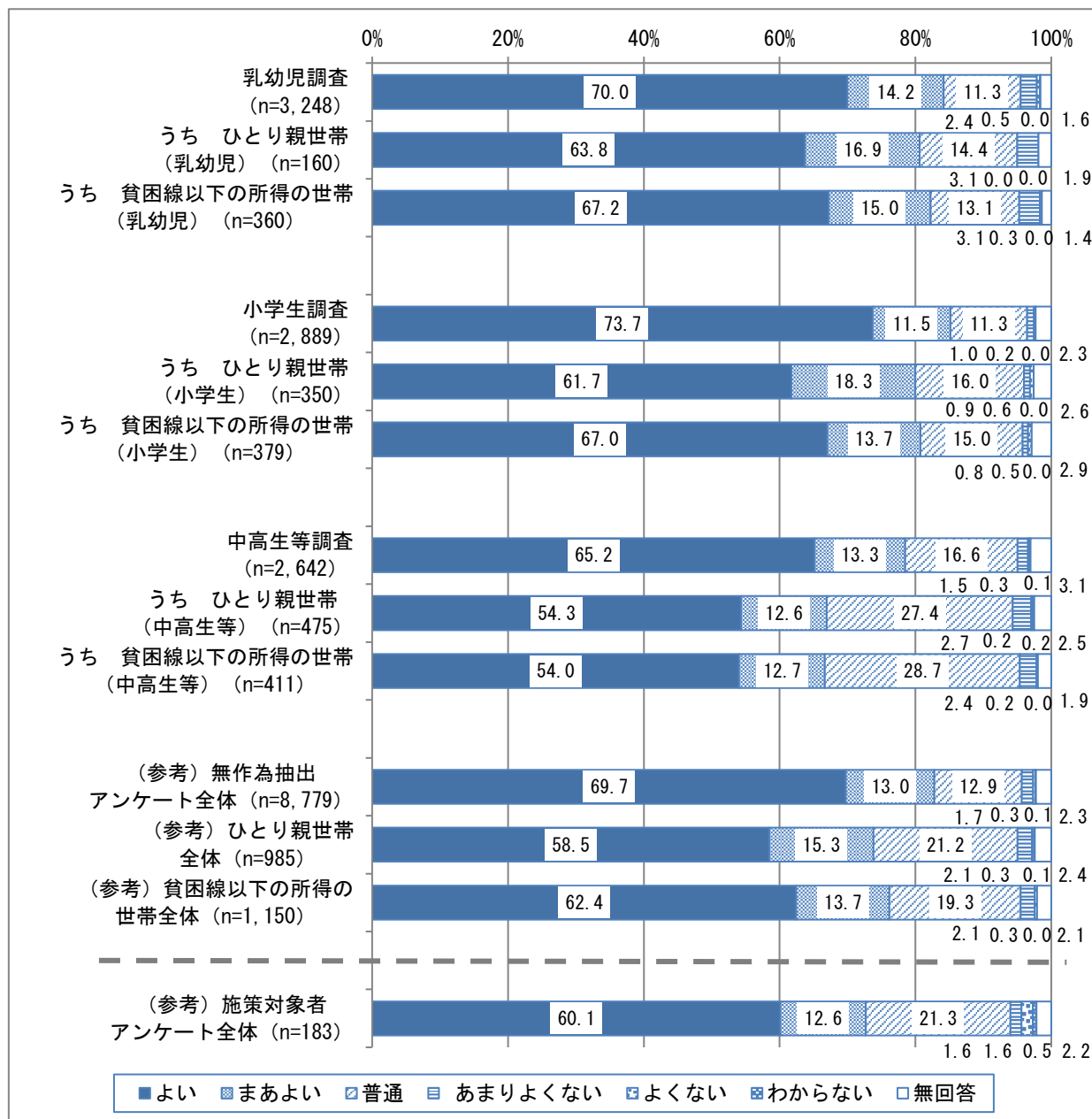




## 健康状態

- 子どもの健康状態については、乳幼児、小学生、中高生等のいずれも、大半が「よい」や「まあよい」と回答していますが、「ひとり親世帯」や「貧困線以下の所得の世帯」の「よい」の割合が全体と比較して低くなっています。

図表 13 子どもの健康状態



## 所有物（自分一人で使うものとして持っているもの）

- ・ 所有物（自分一人で使うものとして持っているもの）について、乳幼児は「どれも持っていない」の割合が86.6%、小学生、中高生等は「勉強机」の割合が63.2%、82.1%と最も高くなっています。
- ・ 「ひとり親世帯」や「貧困線以下の所得の世帯」では、小学生、中高生等において、「勉強机」、「部屋」は全体と比較して低い一方、小学生においては、「テレビ」、「携帯電話」、「スマートフォン」、「携帯ゲーム機」が、中高生等においては、「テレビ」、「スマートフォン」の割合が高い傾向にあります。

図表 14 所有物(自分一人で使うものとして持っているもの)

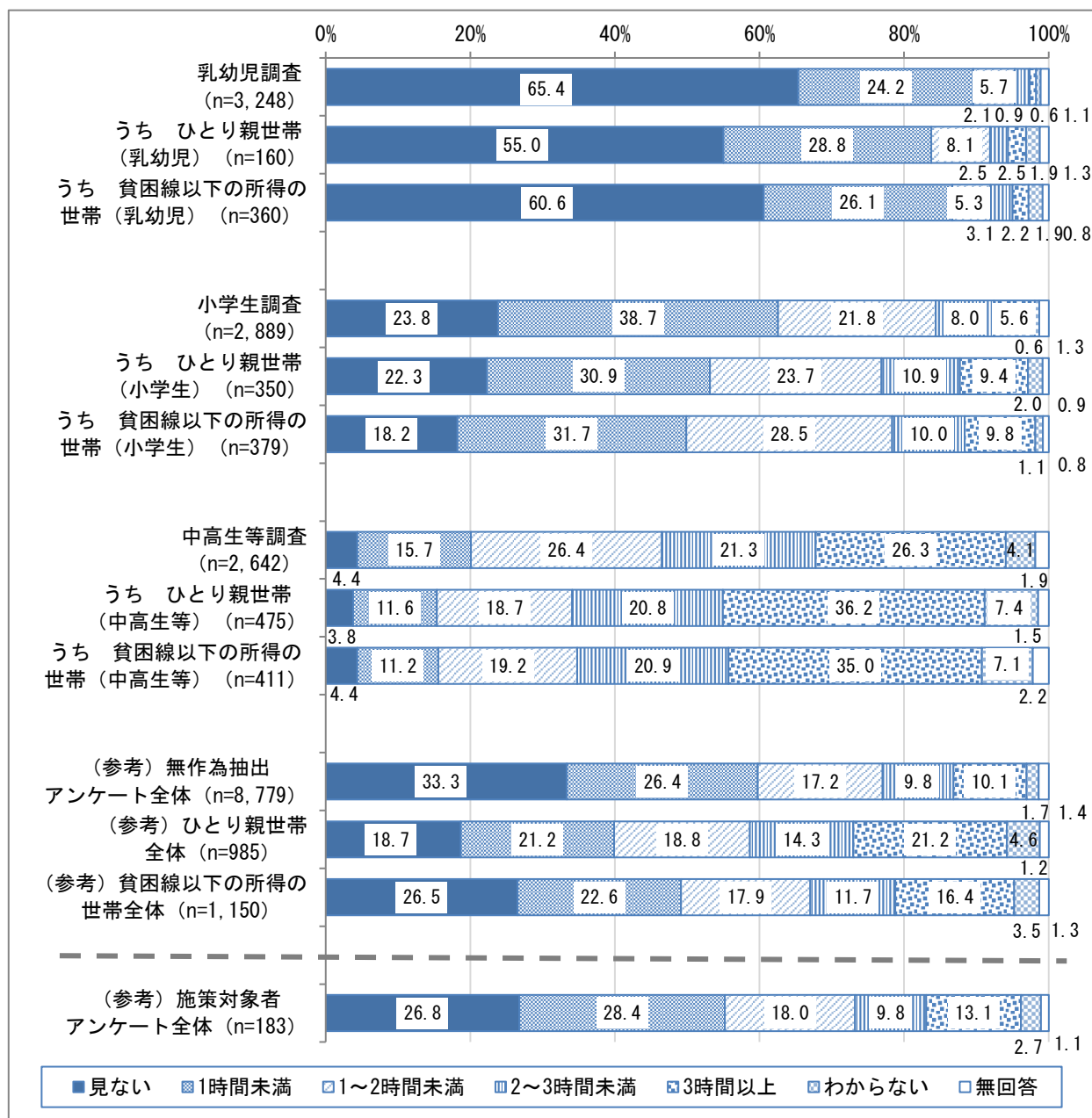
(単位:%)

	テレビ	携帯電話(スマートフォンを除く)	スマートフォン	パソコン	タブレット端末	テレビゲーム	携帯ゲーム機	勉強机	部屋	どれも持っていない	無回答
乳幼児調査(n=3,248)	1.0	0.2	0.9	0.2	2.3	0.4	2.5	3.9	4.2	86.6	1.0
うち ひとり親世帯(乳幼児)(n=160)	3.1	2.5	0.6	0.0	5.0	2.5	5.0	3.8	8.8	73.8	1.3
うち 貧困線以下の所得の世帯(乳幼児)(n=360)	1.7	0.6	1.1	0.8	2.2	1.1	3.3	3.9	3.9	85.3	1.1
小学生調査(n=2,889)	2.5	23.8	3.8	1.5	9.9	13.4	47.7	63.2	30.5	13.2	1.5
うち ひとり親世帯(小学生)(n=350)	6.3	30.6	9.1	2.9	12.0	20.9	56.0	57.7	28.3	10.3	1.4
うち 貧困線以下の所得の世帯(小学生)(n=379)	5.3	24.5	6.3	1.3	9.8	13.7	54.1	55.7	25.1	12.7	1.1
中高生等調査(n=2,642)	10.8	11.5	72.2	12.7	16.0	17.5	43.8	82.1	62.8	0.8	1.6
うち ひとり親世帯(中高生等)(n=475)	14.9	11.2	76.8	14.1	13.1	18.3	37.5	70.9	53.5	1.3	1.3
うち 貧困線以下の所得の世帯(中高生等)(n=411)	11.7	10.7	75.9	12.9	12.9	17.3	40.4	72.0	49.9	1.7	1.0
(参考)無作為抽出アンケート全体(n=8,779)	4.5	11.4	23.3	4.4	8.9	9.8	29.8	47.0	30.5	36.6	1.3
(参考)ひとり親世帯全体(n=985)	9.9	16.6	40.4	7.8	11.4	16.6	38.8	55.3	37.3	16.2	1.3
(参考)貧困線以下の所得の世帯全体(n=1,150)	6.4	12.1	29.6	5.3	8.5	11.0	33.3	45.3	27.3	31.5	1.0
(参考)施策対象者アンケート全体(n=183)	4.4	20.8	20.8	9.8	5.5	6.6	22.4	32.8	14.2	34.4	1.1

## 携帯ゲームやスマートフォン等の使用時間

- ・ 乳幼児では「見ない」の割合が、小学生では「1時間未満」の割合が、中高生等で「1～2時間未満」の割合が、それぞれ最も高くなっています。
- ・ 「ひとり親世帯」や「貧困線以下の所得の世帯」について、小学生、中高生等で「3時間以上」の割合が全体と比較して高くなっています。
- ・ 子どもとの関わり別について、乳幼児、小学生では、「ほぼ毎日」子どもと遊んでいる場合の「見ない」割合が他と比較して高くなっています。また、中高生等では、「ほぼ毎日」子どもと会話する機会がある場合、「1時間未満」の割合が、他と比較してやや高くなっています。

図表 15 携帯ゲームやスマートフォン等の使用時間



図表 16 子どもとの関わり別 携帯ゲームやスマートフォン等の使用時間

(乳幼児, 小学生は子どもと遊ぶ機会, 中高生等は子どもと会話する機会)

(単位: %)

	(n=)	見ない	1時間未満	1~2時間未満	2~3時間未満	3時間以上	わからない	無回答
<b>乳幼児調査</b>	3,248	65.4	24.2	5.7	2.1	0.9	0.6	1.1
うち ほぼ毎日	2,127	68.7	22.1	4.7	2.0	0.8	0.6	1.2
うち 週に3~4日	451	57.0	30.8	6.9	2.0	2.0	0.4	0.9
うち 週に1~2日	581	61.6	26.3	8.1	1.9	0.7	0.5	0.9
うち 月1~2日・めったにない	74	55.4	27.0	8.1	5.4	1.4	2.7	0.0
<b>小学生調査</b>	2,889	23.8	38.7	21.8	8.0	5.6	0.6	1.3
うち ほぼ毎日	441	29.9	35.4	20.9	7.0	4.8	0.9	1.1
うち 週に3~4日	516	24.2	39.5	21.1	9.5	3.7	0.4	1.6
うち 週に1~2日	1,299	24.4	40.0	21.7	7.3	5.1	0.2	1.3
うち 月1~2日・めったにない	605	17.5	37.7	23.8	9.3	9.1	1.5	1.2
<b>中高生等調査</b>	2,642	4.4	15.7	26.4	21.3	26.3	4.1	1.9
うち ほぼ毎日	1,600	4.3	18.7	28.5	21.1	23.0	2.9	1.5
うち 週に3~4日	493	4.1	12.2	25.4	22.9	28.0	5.3	2.2
うち 週に1~2日	322	4.0	12.4	20.2	22.4	33.9	5.9	1.2
うち 月1~2日・めったにない	161	3.7	9.3	23.0	14.3	39.1	8.7	1.9

※「月1~2日・めったにない」は「月1~2日」と「めったにない」と回答した人の合計

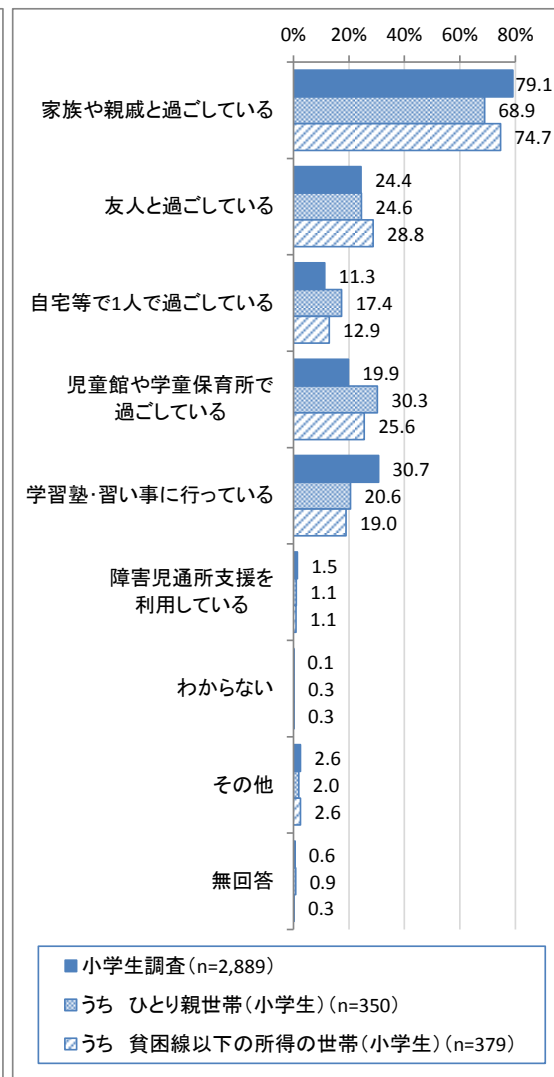
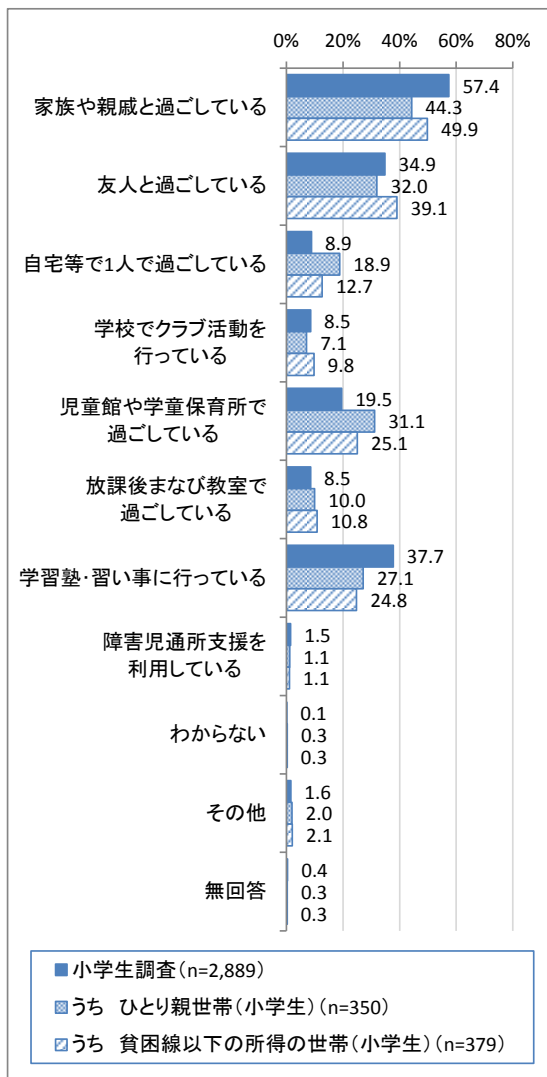
## 放課後又は長期休業中の過ごし方（小学生）

- 小学生では放課後，長期休業中ともに「家族や親戚と過ごしている」が 57.4%，79.1% と最も高く，次いで「学習塾・習い事に行っている」が 37.7%，30.7% となっています。
- 「ひとり親世帯」や「貧困線以下の所得の世帯」では，放課後，長期休業中ともに，全体と比較して「学習塾・習い事に行っている」の割合が低くなっており，「自宅等で1人で過ごしている」，「児童館や学童保育所で過ごしている」の割合が高くなっています。

図表 17 放課後又は長期休業中の過ごし方(小学生)

<放課後>

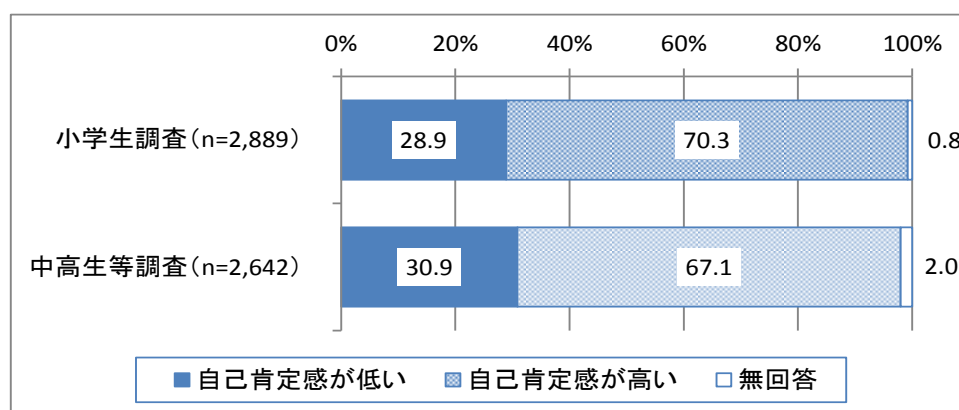
<長期休業中>



### (3) 子どもの自己肯定感

- ・ 「将来の明るい希望を話すことができる」等の子どもの自己肯定感に関する設問については、すべてが「できる」又は「どちらかというところできる」割合が小学生で 70.3%、中高生等で 67.1%となっています。
- ・ 親との遊びや会話の関わり状況について、小学生、中高生のいずれも、「ほぼ毎日」の場合、「自己肯定感が高い」割合が、他と比較して高くなっています。
- ・ 子育てにかかる時間やお金などの優先度別の自己肯定感の状況について、小学生、中高生等のいずれも、「最も優先すべき」の場合の「自己肯定感が高い」割合が、他と比較して高くなっています。
- ・ 文化芸術活動・自然体験・スポーツ活動の機会の有無別について、小学生、中高生等のいずれも、各活動の機会が「月1回以上」、「年数回以上」の場合、「自己肯定感が高い」割合が、他と比較して高くなっています。

図表 18 自己肯定感の状況(まとめ)



※ 自己肯定感の状況：「将来の明るい希望を話すことができる」、「自信を持って、行動したり人と関わることができる」、「目標に向かって努力することができる」について、すべてに「できる」又は「どちらかというところできる」と回答した人は「自己肯定感が高い」、いずれかで「どちらかというところできない」又は「できない」と回答した人は「自己肯定感が低い」としている。

図表 19 親との関わり状況別 自己肯定感の状況

(小学生は親と遊ぶ機会、中高生等は親との日常生活の会話の有無) (単位: %)

	(n=)	自己肯定感が低い	自己肯定感が高い	無回答
小学生調査	2,889	28.9	70.3	0.8
うち ほぼ毎日	441	20.4	79.4	0.2
うち 週に3~4日	516	22.5	77.5	0.0
うち 週に1~2日	1,299	30.8	69.1	0.1
うち 月1~2日・めったにない	605	36.9	63.0	0.2

中高生等調査	2,642	30.9	67.1	2.0
うち ほぼ毎日	1,600	24.2	75.7	0.1
うち 週に3~4日	493	34.5	65.3	0.2
うち 週に1~2日	322	48.1	51.6	0.3
うち 月1~2日・めったにない	161	58.4	41.6	0.0

※ 「月1~2日・めったにない」は「月1~2日」と「めったにない」と回答した人の合計

図表 20 子育てにかかる時間やお金などの優先度別 自己肯定感の状況(小学生) (単位:%)

	(n=)	自己肯定感が低い	自己肯定感が高い	無回答
小学生調査	2,889	28.9	70.3	0.8
うち 最も優先すべき	980	22.4	77.4	0.1
うち できるなら優先すべき	1,807	32.2	67.7	0.1
うち 他に優先すべきことがある・わからない	73	39.7	60.3	0.0

図表 21 子育てにかかる時間やお金などの優先度別 自己肯定感の状況(中高生等) (単位:%)

	(n=)	自己肯定感が低い	自己肯定感が高い	無回答
中高生等調査	2,642	30.9	67.1	2.0
うち 最も優先すべき	1,005	24.2	75.8	0.0
うち できるなら優先すべき	1,520	35.7	64.2	0.1
うち 他に優先すべきことがある・わからない	57	40.4	56.1	3.5

図表 22 文化芸術活動・自然体験・スポーツ活動の機会の有無別 自己肯定感の状況

<文化芸術活動>

(単位:%)

	(n=)	自己肯定感が低い	自己肯定感が高い	無回答
小学生調査	2,889	28.9	70.3	0.8
うち 月1回以上	458	19.0	81.0	0.0
うち 年数回以上	1,494	27.1	72.8	0.1
うち 年1回程度	488	34.4	65.6	0.0
うち まったくない・わからない	406	42.1	57.9	0.0
中高生等調査	2,642	30.9	67.1	2.0
うち 月1回以上	337	23.4	76.6	0.0
うち 年数回以上	1,235	26.3	73.5	0.2
うち 年1回程度	432	37.0	63.0	0.0
うち まったくない・わからない	555	43.8	56.0	0.2

※「まったくない・わからない」は「まったくない」と「わからない」と回答した人の合計

<自然体験>

(単位:%)

	(n=)	自己肯定感が低い	自己肯定感が高い	無回答
小学生調査	2,889	28.9	70.3	0.8
うち 月1回以上	389	25.7	74.3	0.0
うち 年数回以上	1,604	25.9	74.1	0.0
うち 年1回程度	575	33.9	65.9	0.2
うち まったくない・わからない	280	43.6	56.4	0.0
中高生等調査	2,642	30.9	67.1	2.0
うち 月1回以上	78	24.4	75.6	0.0
うち 年数回以上	733	26.1	73.8	0.1
うち 年1回程度	791	29.2	70.7	0.1
うち まったくない・わからない	948	38.3	61.6	0.1

※「まったくない・わからない」は「まったくない」と「わからない」と回答した人の合計

<スポーツ活動>

(単位:%)

	(n=)	自己肯定感が低い	自己肯定感が高い	無回答
小学生調査	2,889	28.9	70.3	0.8
うち 月1回以上	1,609	23.7	76.3	0.0
うち 年数回以上	545	30.3	69.7	0.0
うち 年1回程度	200	35.5	64.5	0.0
うち まったくない・わからない	465	44.3	55.7	0.0
中高生等調査	2,642	30.9	67.1	2.0
うち 月1回以上	1,086	26.4	73.4	0.2
うち 年数回以上	404	23.0	77.0	0.0
うち 年1回程度	273	31.1	68.9	0.0
うち まったくない・わからない	790	42.9	57.0	0.1

※「まったくない・わからない」は「まったくない」と「わからない」と回答した人の合計

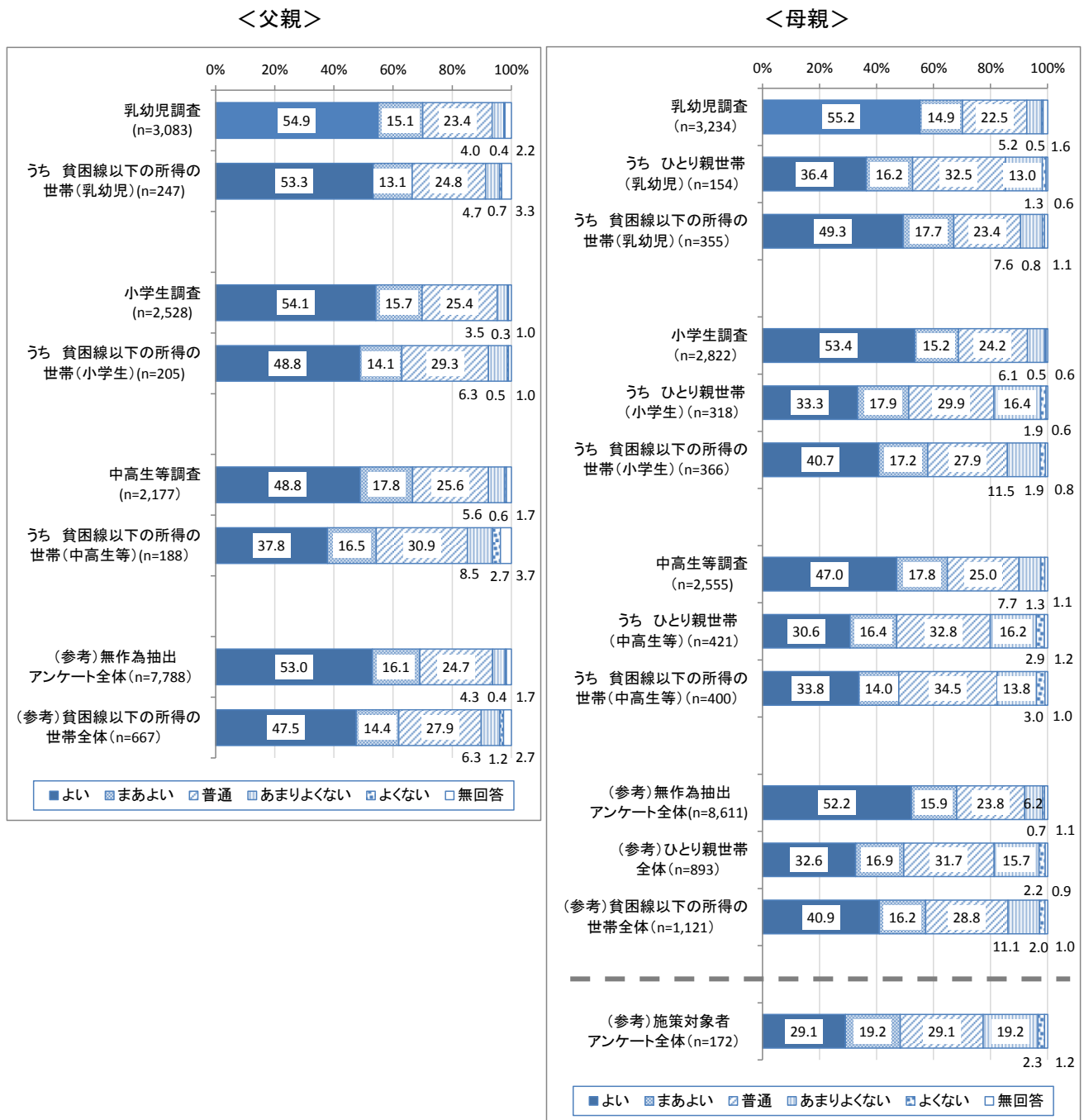


## 4 保護者の状況について

### 保護者の健康状態

- 健康状態については、「よい」、「まあよい」という回答が半数以上を占めています。
- 「ひとり親世帯」の母親や「貧困線以下の所得の世帯」については、全体と比較して「よい」の割合が低くなっており、「よくない（「よくない」+「あまりよくない」の合計）」の割合が、全体と比較して高くなっています。

図表 23 保護者の健康状態

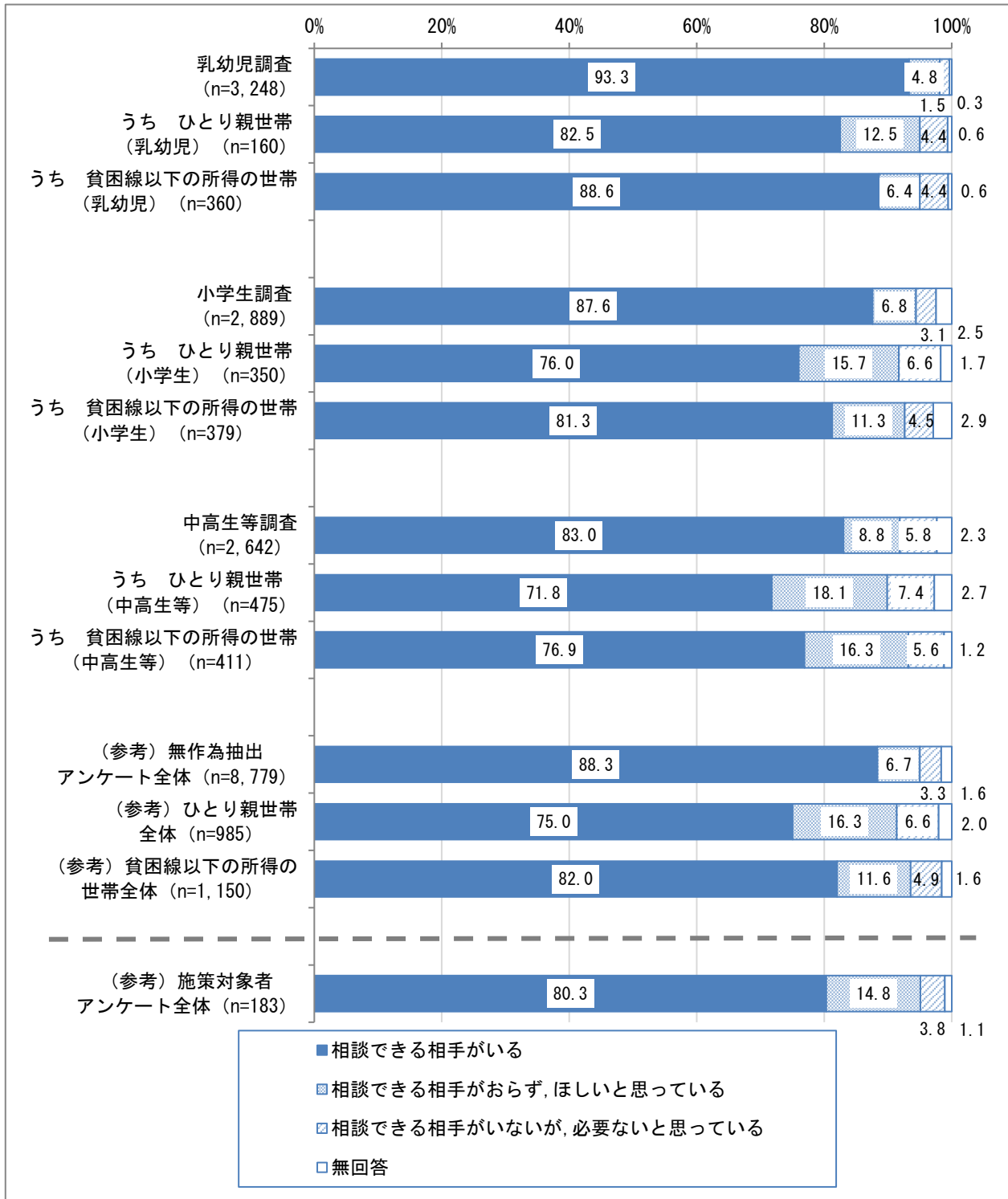


※ ひとり親世帯及び施策対象者アンケートでの父親の標本数が少ないため、<父親>のグラフに掲載していない。

## 相談相手の状況

- ・ 相談相手の状況については、すべての年齢区分で「相談できる相手がいる」の割合が最も高くなっています。
- ・ 「ひとり親世帯」や「貧困線以下の所得の世帯」について、「相談できる相手がおらず、ほしいと思っている」の割合が全体と比較して高くなっています。

図表 24 相談相手の状況



## 5 支援策について 求めている子育て支援策

- 求めている子育て支援策については、乳幼児では「保護者が家にいないときに子どもを預かる場やサービスの提供」(45.9%)、「生活や就学のための経済的補助」(43.0%)、「自然体験や集団遊びなど、多様な活動機会の提供」(40.9%)、小学生では「生活や就学のための経済的補助」(40.8%)、「自然体験や集団遊びなど、多様な活動機会の提供」(34.8%)、「保護者が家にいないときに子どもを預かる場やサービスの提供」(28.8%)、中高生等では「生活や就学のための経済的補助」(46.2%)、「会社などでの職場体験等の機会」(21.3%)、「仕事に就けるようにするための就労に関する支援」(19.7%)の割合が高くなっており、年齢区分によって求める支援策に異なりがあります。
- 「ひとり親世帯」や「貧困線以下の所得の世帯」では、上記のほか、「低い家賃で住める住居の確保」の割合が高くなっています。

図表 25 求めている子育て支援策

	保護者が家にいないときに子どもを預かる場やサービスの提供	低い家賃で住める住居の確保	生活や就学のための経済的補助	進路や生活などについてなんでも相談できる場所	仲間と出会え、一緒に活動できる場所	自然体験や集団遊びなど、多様な活動機会の提供	地域における子どもの居場所の提供	読み書き計算などの基礎的な学習への支援	会社などでの職場体験等の機会	仕事に就けるようにするための就労に関する支援	望ましい食生活を育むための環境整備	その他	特になし	わからない	無回答
<b>乳幼児調査</b> (n=3,248)	45.9	14.1	43.0	8.4	24.8	40.9	30.2	12.7	5.4	7.0	6.0	5.8	3.3	1.5	1.6
うち ひとり親世帯 (乳幼児)(n=160)	39.4	38.8	56.3	10.6	16.3	23.1	19.4	21.9	1.9	6.9	3.8	6.9	3.1	1.9	1.3
うち 貧困線以下の所得の世帯(乳幼児)(n=360)	40.0	36.1	60.8	6.9	14.4	29.2	21.9	15.6	4.4	8.9	6.7	4.4	1.9	1.4	1.4
<b>小学生調査</b> (n=2,889)	28.8	9.0	40.8	12.3	26.7	34.8	24.5	15.4	14.3	9.6	3.2	4.1	5.2	1.6	1.6
うち ひとり親世帯 (小学生)(n=350)	26.6	35.1	59.7	11.1	16.3	25.4	16.6	15.7	8.6	10.6	3.4	4.0	3.1	2.3	1.4
うち 貧困線以下の所得の世帯(小学生)(n=379)	23.5	26.6	64.1	11.9	17.4	24.0	21.6	17.9	9.5	10.8	4.5	1.8	4.5	0.8	0.3
<b>中高生等調査</b> (n=2,642)	4.7	10.7	46.2	18.0	16.7	10.3	5.6	4.7	21.3	19.7	3.9	4.6	14.0	2.8	3.2
うち ひとり親世帯 (中高生等)(n=475)	5.7	33.1	63.6	16.6	13.9	7.4	4.6	6.5	13.9	20.4	6.9	4.0	7.6	3.2	3.6
うち 貧困線以下の所得の世帯(中高生等)(n=411)	4.9	28.7	66.9	18.7	12.2	4.9	4.4	8.8	16.8	22.6	5.1	4.6	6.1	2.9	1.0
(参考)無作為抽出アンケート全体 (n=8,779)	27.9	11.4	43.3	12.6	23.0	29.7	20.9	11.2	13.1	11.7	4.4	4.9	7.2	1.9	2.1
(参考)ひとり親世帯(n=985)	18.6	34.7	61.0	13.7	15.1	16.3	11.3	12.3	10.1	14.7	5.2	4.5	5.3	2.6	2.4
(参考)貧困線以下の所得の世帯(n=1,150)	22.0	30.3	64.1	12.8	14.6	18.8	15.6	13.9	10.5	14.4	5.4	3.7	4.3	1.7	0.9
(参考)施策対象者アンケート全体 (n=183)	19.1	42.6	59.6	11.5	12.0	15.3	16.4	18.6	6.0	10.9	8.2	4.4	4.4	1.6	2.7